

静商同窓会 関西支部 お知らせ

令和2年6月発行 NO 13号

新型コロナ感染問題も漸く収束に向かいつつありますが、皆様、お変わりなくお過ごしのことと思います。就いては、4月案内の支部総会開催延期に関し、本日延期後の開催日をお知らせします。

I 令和2年度 延期支部総会は秋に開催

本部総会は例年6月初旬開催予定でしたが、9月26日(土)に延期になりました。関西支部としては本部の後の時期にと会場を探し、結果下記の日程になりました。本年は秋の深まる時期の開催となりました。多数のご参加をお待ちしています。

- 1 日時 2020年11月28日(土) 11時半から受付 12時開始
- 2 場所 新大阪ワシントンホテルプラザ

II 母校校歌は原曲どおりの速いテンポに戻った

- ◎ これまで数十年間歌っていた「波メロディー」の演奏テンポは、今年の2月から表題のようになりました。この間の事情について説明します。(資料元・静商百年誌)
- 母校は明治32年(1899)に創立されたが、校歌は大正3年(1914)に制定され106年の歴史がある。作詞は母校に19年間教諭として建学の精神を熟知する桜井久太郎先生。作曲は東京音楽学校(現東京芸大)卒業・教授で童謡の花咲じいさん、金太郎、牛若丸などを作曲した高名な音楽家田村虎蔵。
- 第56回卒の大津哲治氏は、昭和29年母校野球部が夏の甲子園準優勝当時の応援団長でしたから、近年の校歌のテンポが当時と違って遅いことに気づいていた。静商百年誌に掲載の校歌の楽譜には、テンポは♩=108で演奏すべきと作曲家の指示があり、現在を調べると確かに遅いことが分かった。しかしなぜ昭和30年代からテンポを変えたのか不明である。これらのことから大津氏と富坂は同窓会を通して母校に原曲復帰を要望した結果、106年前の制定以来のテンポの「波メロディー」に戻った。(参考：♩=108・1分間に4分音符を108回のテンポで演奏する表示)
- 校歌の制定時から終戦前までには、多くの先輩方の校歌への熱い想いを込めた歴史があった。
 - ・校歌誕生時には、メロディー、ホワイトラインなどの外国語の歌詞が問題となって未定稿だったが職員生徒らに愛され、歌われて定稿になった。
 - ・昭和元年頃当時の校長は、戦時色の濃い時代に合う自ら作詞した第二校歌を歌うように指導したが生徒からは「讚美歌の様で歌えない」や、校長への反抗から歌おうとしなかった。結局第二校歌は消えた。
 - ・敗戦濃厚な昭和20年3月の卒業式では、校歌斉唱の時、初めは当時新たに制定された校歌を歌っていたが、一部の生徒から「波メロディー」が歌われ始め最後は生徒全員の大合唱になった。校則違反覚悟で愛する校歌を守った。

III 会員動静他

- ・岩嶋慶子様(65回) 真弓澄子様(74回)が関西支部に参加されました。
静商同窓会 関西支部 富坂誠二
〒569-1053 大阪府高槻市萩谷月見台3-10
電話 FAX 072-699-0256
メール seitomisaka@maia.eonet.ne.jp